

通常の学級における学習上の困難さのある 児童生徒への必要な教育的支援の在り方

— 「もしもシート」の開発と活用を通して— (二年次)

【研究者】

特別支援教育・教育相談部 指導主事 金本倫子・廣藤香織・井上歩美

【研究指導者】

国立特別支援教育総合研究所 西日本ブランチ広島オフィス 研究企画部 総括研究員 大崎博史

【共同研究者】

東広島市立入野小学校 教諭 阿部恵大、尾道市立吉和中学校 教諭 赤瀬彩子、
広島県立賀茂北高等学校 教諭 向井統基、広島県立安西高等学校 教諭 竹野優子
広島県教育委員会 指導主事 田村 沙織・間賀 綾音

【研究協力者】

特別支援教育・教育相談部 指導主事 三好彩加、主査 鈴木優佳、主事 三吉久美子



1

研究の背景

文部科学省：「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」より
「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童
生徒の中には校内委員会で十分に支援が検討されていない場合があり、担任等が個々の
判断で配慮・支援を行っている。



どんな支援をすることが有
効なのか、子供によって違
う。一つの方法で全ての子
供には通用しない…。

問題の所在

一人一人の困難さや支援が
違うので、適切な対応がで
きていないのか自信がない…。

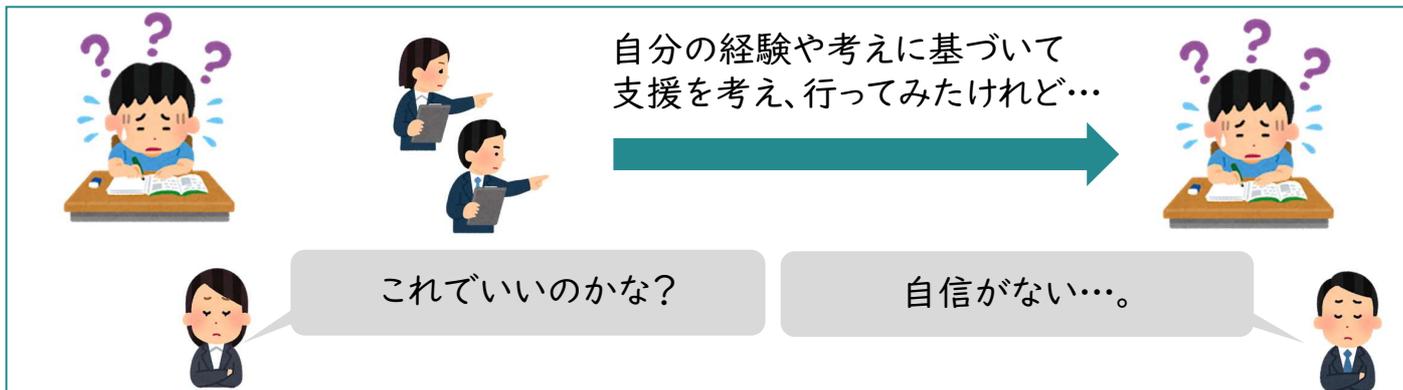


支援の必要性に気づきながらも、
実際に支援を行うことへの難しさを感じている。

通常の学級における学習上の困難さのある児童生
徒への必要な教育的支援の考え方を提案し、通常
の学級での支援の充実を図る。

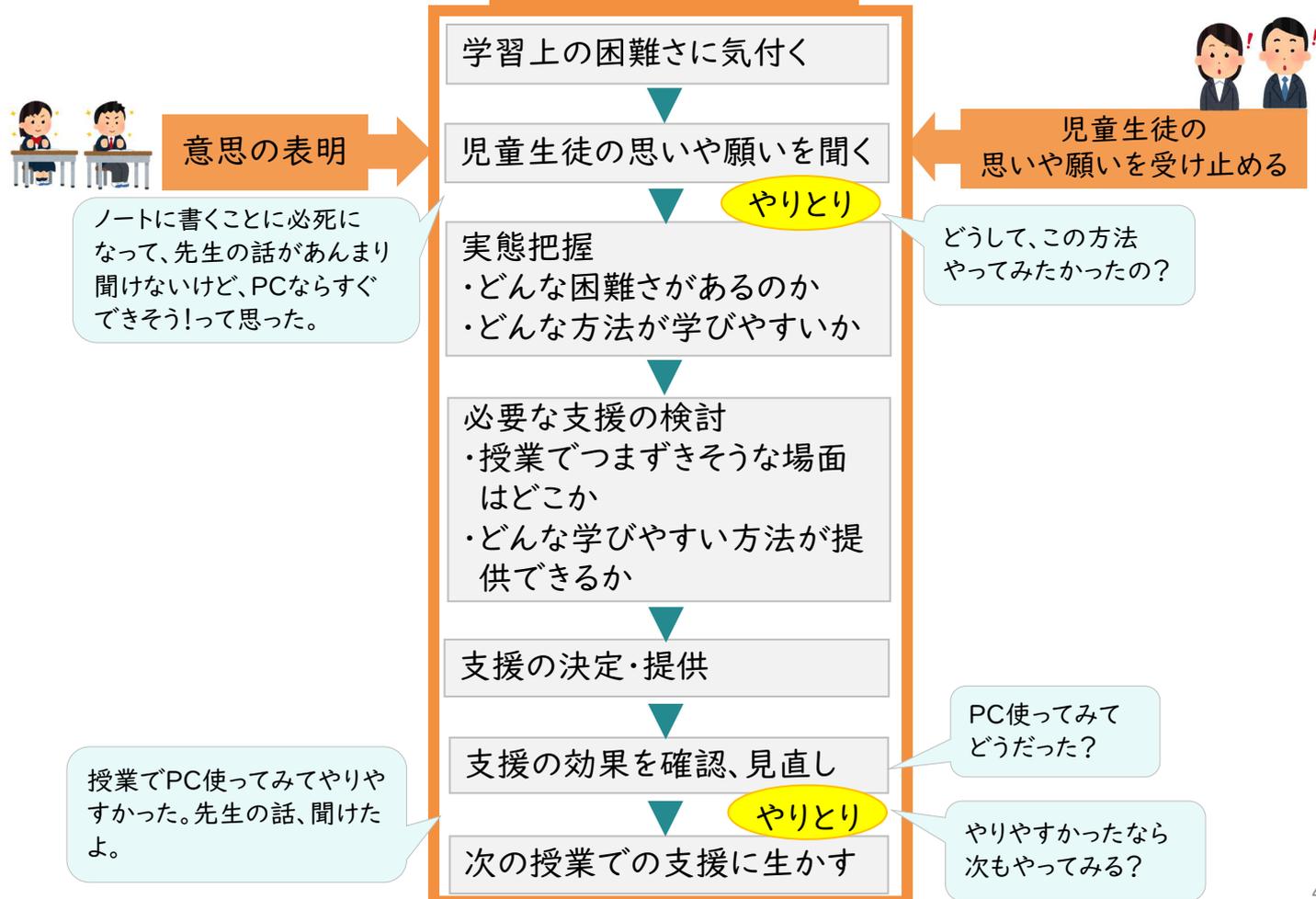
2

支援を考えるとき…



研究の背景

支援のプロセス



研究の目的（今年度）

通常の学級における学習上の困難さのある
児童生徒への必要な教育的支援の在り方

「もしもシート」を基にした「支援のプロセス」に沿って実践を行い、
「支援のプロセス」が有効であったかを検証し、支援の在り方として整理する。

5

研究の方法（今年度）

「もしもシート」の改訂



「もしもシート」を基にした「支援のプロセス」に沿った実践

教師への聞き取り調査

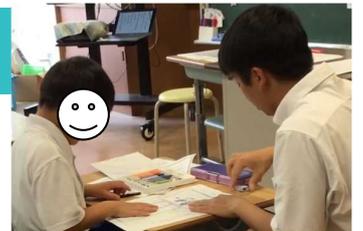
児童生徒への質問紙調査



教育的支援の考え方の提案

【協力いただいた学校】

東広島市立
入野小学校



尾道市立
吉和中学校



広島県立
賀茂北高等学校



広島県立
安西高等学校



6

実践から：児童生徒の思いや願いを聞く～実態把握

「もしもシート」の記入から（一部紹介）

	設問1（話を聞く）						設問3（考えが浮かばない）						設問4（既習事項思い出せない）									
	1	①	②	③	④	⑤	⑥	3	①	②	③	④	⑤	⑥	4	①	②	③	④	⑤	⑥	
	ある・ない	い合 図が ほし い	等ほ しワ ード	キほ しに 書き	て黒 板に 書き	説明 しず つの	た周 りに 聞き	り今 まで どお	ある ・不 選 択肢 から	い選 択肢 がほ し	資料 が順 番	り考 えら れた 具体 例が 知	した り周 りと 相談	り今 まで どお	ある ・不 ある ・不 ある ・不	やキ 絵ワ 等ード	との 学 習し たこ	使 いた い	パソ コン 等	こ教 科書 のど	した たい 相 談	り今 まで どお
	1		1			1		1						1	1				1	1		
	1						1		1	1	1			1	1			1				
	1							1						1								1
	1				1	1		1						1	1							1
	1						1							1	1		1					1
	1		1				1							1	1						1	1
	1	1	1		1	1		1	1	1	1	1	1	1	1				1	1		
	1	1			1			1			1	1		1	1	1			1	1		
	1			1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1						1	1
	1						1	1						1	1							1
	1				1	1		1	1					1	1							1
	1						1	1						1	1				1	1	1	
	1						1	1						1	1				1	1	1	
	1			1	1			1	1					1	1				1	1	1	1
計	21	3	8	6	11	14	13	16	7	7	8	9	5	16	19	8	6	4	8	10	14	

実践から：必要な支援の検討（小学校第1学年）

支援のプロセス

学習上の困難さに気付く

児童生徒の思いや願いを聞く

やりとり

実態把握

- ・どんな困難さがあるのか
- ・どんな方法が学びやすいか

必要な支援の検討

- ・授業でつまづきそうな場面はどこか
- ・どんな学びやすい方法が提供できるか

支援の決定・提供

支援の効果を確認、見直し

やりとり

次の授業での支援に生かす

児童の思いや願い

（支援の一例）

考えが思い浮かばないときがある。（ある）ない

選択肢から自分の考えに近いものを選びたい。

文字や漢字を書くことが難しいときがある。（ある）ない

・（チェックなし）

実態把握・支援の検討

ひらがなを書くのに時間が掛かるし、気持ちを言葉にすることが苦手だな…

字を書くことに時間が掛かるな…絵日記の気持ちを書くときにもつまづきそうだから…

「どうだった」（気持ち）をいくつか提示して選べるようにしてみたらいいかな？

絵日記を書くワークシートを見本に沿って書くタイプを用意してみよう！

支援の決定・提供

・気持ちの選択肢を提示・見本に沿って記入できるワークシートの工夫

実践から：必要な支援の検討（高等学校第1学年）

支援のプロセス

学習上の困難さに気付く

児童生徒の思いや願いを聞く

やりとり

実態把握

- ・どんな困難さがあるのか
- ・どんな方法が学びやすいか

必要な支援の検討

- ・授業でつまずきそうな場面はどこか
- ・どんな学びやすい方法が提供できるか

支援の決定・提供

支援の効果を確認、見直し

やりとり

次の授業での支援に生かす

生徒の思いや願い



(支援の一例)

考えが思い浮かばないときがある。(ある・ない)

- 大まかにどんなことをするのか具体例が知りたい。

前に学習したことを思い出せないときがある。(ある・ない)

- 学習したことに関係する言葉、キーワードや絵、図がほしい。

板書をノート等に写すときに時間が掛かる。(ある・ない)

- ICT機器を使って入力したい。

実態把握・支援の検討

前に学習したことを思い出せなかったりするときがあるのか…。

ワークシートと合わせてPCで発表するようにすると、取り組みやすいかも!

だとすると、語句が思い出せなかったり、文の構造が曖昧だったりすると、テーマに沿って助動詞を使った英文を考えるときにつまずくだろうな…。

文構造が分かるように、ワークシートに示しておこう。助動詞には色を付けて意識しやすくしてみよう!

支援の決定・提供

- ・語句・文型クイズの導入・助動詞を意識しやすいワークシートの工夫・PCを使った英文の記入

9

実践から：支援の効果を確認、見直し（中学校第3学年）

支援のプロセス

学習上の困難さに気付く

児童生徒の思いや願いを聞く

やりとり

実態把握

- ・どんな困難さがあるのか
- ・どんな方法が学びやすいか

必要な支援の検討

- ・授業でつまずきそうな場面はどこか
- ・どんな学びやすい方法が提供できるか

支援の決定・提供

支援の効果を確認、見直し

やりとり

次の授業での支援に生かす

支援の効果を確認、見直し

やりとり

もしもトーク

どんな方法があったらがんばれそう?

分かった!じゃあ、席を前にしてみよう。公式も貼っておくね。

前の席の方がいいな。公式が教室の前に貼ってあったらいい。

いつでも見える方が安心できるんだな。「もしもシート」でも「どこに載っているか示してほしい。」にチェックが付いたよね。

復習の時間では、今までの板書をクラスルームにあげておこう!

問題ごとに教科書のどこを見たら解けるかページを示してみよう!

次の授業での支援

- ・解き方を示してある教科書や板書の提示

10

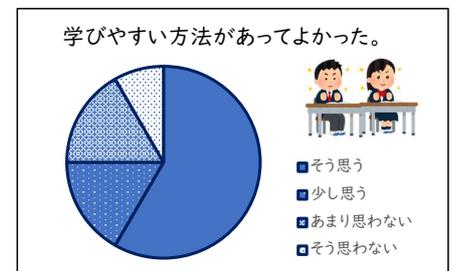
研究の結果

【教師から】

- 自分から学びやすい方法について「言ってもいいんだ。」という主体的に学ぶ意識が芽生えた。
- 生徒が前向きになっている気がする。
- 生徒が「やってほしい。」と表明した方法については、すでに取り入れていたことが多く、取組は間違っていなかったと自信になった。
- 適切な支援につながるように、(学びやすい方法を)お互いに見付けられている感じがする。
- 支援に対して前向きに考えられるようになった。
- 本人が困難さに気付いていない生徒には使えない。
- 「もしもシート」の結果を生徒に提示すれば、生徒の思いや願いを受け止めてもらえているということが意識しやすかったかもしれない。

【学習上の困難さがあると把握している児童生徒から】

- プリントを作ってくれるのでやりやすくていい。書くのが簡単というのもあるけど、授業で考えやすい。(高等学校)
- 間違い探し(学びやすい方法の一つ)があった方が見やすい。(小学校)

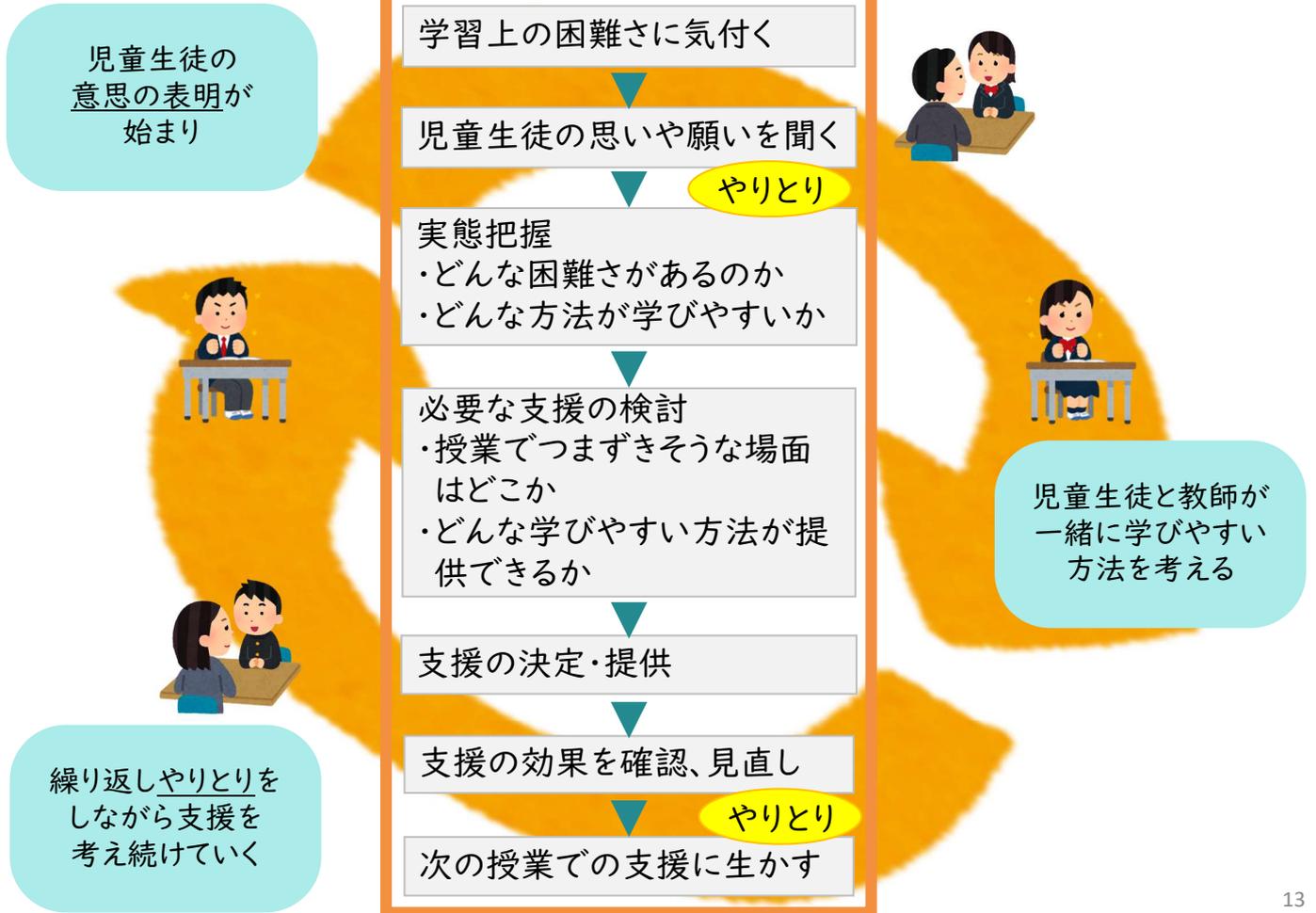


11

研究のまとめ

成果と課題

- 小・中・高等学校それぞれの段階で「もしもシート」を基にした「支援のプロセス」に沿った実践により、児童生徒の思いや願いを受け止め、より必要だと思われる支援につなげることができた。
- 児童生徒の思いや願いを受け止めることから始めることで、教師が自信をもって前向きに支援を行うことができた。
- 児童生徒によっては、困難さに気付いていないため、支援を受けることができなかったケースもある。



研究に携わってくださった皆様

【研究指導者】

国立特別支援教育総合研究所 西日本ブランチ広島オフィス
研究企画部 総括研究員 大崎博史

【共同研究者】

東広島市立寺西小学校	教諭 沖野 舞	(令和6年度)
大竹市立玖波中学校	教諭 永野 由美	(令和6年度)
広島県立賀茂北高等学校	教諭 向井 統基	(令和6・7年度)
東広島市立入野小学校	教諭 阿部 恵大	(令和7年度)
尾道市立吉和中学校	教諭 赤瀬 彩子	(令和7年度)
広島県立安西高等学校	教諭 竹野 優子	(令和7年度)

広島県教育委員会

指導主事 平川 真衣	(令和6年度)
指導主事 田村 沙織	(令和7年度)
指導主事 間賀 綾音	(令和7年度)

